

会報

全国文化財壁技術保存会

第 18 号

平成三十(二〇一八)年三月二〇日発行
 編集 全国文化財壁技術保存会
 発行 愛知県江南市力長町 大当寺二八
 事務局
 TEL (〇五八七)五九一八〇〇〇



実技研修 鰻絵

会長 佐藤治男



当会の前身、文化財壁技術研究会の立ち上げから平成29年3月迄、当会の執行部で会の運営に携わり、会の発展の為に会員の皆様方はもとより各方面の先生方の指導を賜り、会の発展の為に微力ではございますが励んでまいりました。

その間、当会の活動を世間に認知されるように会報一号を発

行する様にと全文連の後藤様の助言を受けた上、全文連様より助成金まで賜り、会の存在が世間に認知される様になり、若い技能士の研修も細々と行なってきましたが、姫路城の屋根漆喰塗りの仕事があることで十数名の研修生が参加して漆喰塗りに挑みましたが、ものの見事に失敗しました。城郭研究室の上田様はじめ山脇さん柴田君にご迷惑をおかけして大変申し訳ございませんでした。その後は研修の場所により仮の試験体を作り、研修の場に応じて実技の研修を行うようにしています。

当時、文化庁の担当の先生より芸術文化振興財団へ書類を提出することの連絡を頂き、会の事務担当の梅川さんと二人で書類に目を通し、私と今の事務局長の中嶋さんと二人で東京隼町の申請書の提出場所が無事に書類提出をすることが出来ました。

その後、芸文基金より数百万円の助成金を賜り、会の運営が大変楽になりました。当時文化庁の担当の先生は、江面先生でした。

その後、会員の皆様方およびその配下の若年技能士の熱意により、国の保存技術認定団体にしていただき、毎年技能研修を行なう事が安定的にできるようになり、若い技能士を養成、各地で活躍しております。私は高齢故に執行部を退く事になりましたが、私の息のかかった複数の左官職人は、京都の伝統的建造物左官工事の責任者として、立派に成長して活躍し次の世代に引き継ぐことができるかと確信しています。会員の皆様方には初心を忘れず、会の生みの親の当時の先生方のご意志を守り、会の運営に当たって頂きたいと思っております。

私の住む京都市で土・^{すゑ}苅等材料確保のため、動ける間は今ま

でお世話になった先生方や当会の関係者のご助言を得て、伝統建築物の左官工事の調査や修理保存の為に携えたらと思っております。戦後早くから現代まで、文化財保存工事に携われた事に誇りを持ち、皆様方とご縁を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

副会長 安達保信



平成29年度の会報発刊も18号を迎えます。此れも一重に会員各位及び編集事務局の当会顧問の上田耕三先生始め関係諸氏のご尽力の賜物と厚く御礼申し上げます。

壁技術保存会の運営も技能技術研修会を軸に関係諸団体と

の交流や、会員相互親睦連携、協力により諸事業が円滑に推移出来ました事を喜ばしく感謝申し上げます。

さて、文化財建造物修理に必須の材料の枯渇問題が継続しており、大変危惧の念を強くしております。色々方策を講ずる必要が迫っています。他方、技術者の養成は順調に伸び員数も確保されつつあると感ぜられますが、持てる技能を発揮できる現場が全国的に数少なく、各事業者は苦慮されていると推察されます。現状は、一般建築の左官作業に従事しながら人手をやり繰りして、文化財修理に携わって居るところです。一方、文化財の保存と共に活用が重視される昨今ですが、観光立国日本の啓発により海外からの観光客の増加で、各寺院共また文化財建造物は大変な人出で賑わっています。大変結構な傾向であります。

すが、人が多く集まると施設が痛み易くなります。管理方法も現代に適応した試され方になるうかと考えられます。我々左官工事の土間三和土の通路等通行の増加により、摩耗の為破損が著しく思います。又来客の安全確保の為、施行者の作業工程にも少なからず関わりますこれ等は、現場での発注者や監督者との協議で円滑な作業遂行を図っていく必要があると考えます。

元に戻りますが、伝承者養成技術研修内容も、近代の登録文化財の増加により、明治大正期の建造物で洋風建物の様式に対応すべき各種作業内容にも取り組む必要性があります。益々作業の種類が多くなります。これ等は指導者側も再勉強していかねばならない課題かと考えます。皆様と共に歩んでまいります。どうぞよろしくお願い致します。

第25期(平成29年度)総会

平成29年5月14日、京都市で第25期定期総会を開催しました。

来賓等は、文化庁文化財部参事官(建造物担当)文化財調査官の黒坂貴裕様、京都府教育庁指導部文化財保護課 建造物担当課長の鶴岡典慶様、保存会顧問 公益社団法人全国国宝重要文化財所有者連盟常務理事事務局 長 後藤佐雅夫様、保存会顧問 上田耕三様に出席を頂きました。

総会では、平成28年度事業報告及び収支報告、平成29年度事業計画案及び収支予算案、伝承者養成技術研修会の受験資格改正について審議を行い、原案のとおり承認されました。

引き続き、伝承者養成技術研修会修了生への修了証書の授与を行いました。



研修修了証書授与



総会

左官(日本壁)伝承者養成技術研修会(普通講座)

文化財壁技術の継承を図るため「左官(日本壁)伝承者養成技術研修会(普通講座)」を行いました。

前期は、平成29年8月28日から9月2日の6日間です。愛知県江南市で「犬山市の文化財に関する取り組みについて」「愛知県における文化財保護について」の講義、大津壁の実技、名古屋城の見学、富山県射水市に移動し鰻絵の見学と実技を行いました。

後期は、平成29年10月23日から10月28日の6日間です。高知県南国市で石灰製造工場の見学、香南市で土佐漆喰の講義、土佐漆喰塗り実技、高知城の見学、高松市に移動し四国村の見学、さぬき市で旧恵利家住宅の見学、姫路市に移動し赤・黒大津磨きの実技を行いました。

研修生の感想

■上床 匡史

前期研修は実技が多く、普段仕事でやれないことをたくさん学ぶことができました。二日目から三日目では、色大津の研修を受けました。白色の大津壁は塗ったことがあったのですが、色のついた大津壁は初めての経験でした。灰色と浅黄色、赤色、黒色を塗ったのですが、白色に比べると鰻の跡や当たっていない部分が目立ちやすく、きれいに仕上げるできませんでした。中でも灰色と黒色の大津壁は難しく、鰻の当たっていない部分やムラがすぐ目立ってしまいました。しかし、浅黄色と赤色は余りムラがない状態で仕上げることができました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。五日目から六日日目の実技では、鰻絵の体

験をさせていただきました。鍔絵は初めての経験で、どこをどう盛り上げればいいか、どのよう凹凸をつけようかなど、分からないうことだらけでした。次に、盛り上げる場所にビスで骨を入れるのですが、ここからが問題でした。盛り上げる量などあまり決めていなかったのと、とりあえず飛び出そうな場所にビスを入れていく感じになってしまいました。最終的には良かったのですが、ビスが邪魔になる場所が出てきてしまいました。ビスを入れたら土で盛り上げていくのですが、その盛り上げ方にも高い場所と低い場所があり、とても大変でした。そしてそこから形を作っていくのですが、ここからが正念場でした。形を作るといっても相手は平面ではなく立体なので、のぞき込んだり鍔絵をさかさまにしたりと、動きながら動かしながらやら

なければいけません。さらにそのころには絵は隠れてしまっているの、下絵を確認しながら細かな形を作っていくしかありませんでした。講師の方々にも「こうしたほうがいいんじゃないか?」「ここはこう見える」など教えてもらいながらではあります、なんとか下地を完成させることができました。持ち帰ってから仕上げや色付けをしたのですが、所々壊れてしまいました。しかし、ちゃんと完成させることができました。たです。今回の研修は、やったことがないことをたくさんでき、色々学ぶことができました。講師の方々ありがとうございました。

後期研修は、台風の影響もあり初日は参加できなかったのですが、二日目以降の実技や見学もすごく勉強になりました。二日目の土佐漆喰の実技では初め

て土佐漆喰をさわりました。土佐漆喰は厚く塗らないといけない。と言われても普段の感覚でやってしまい、薄すぎてやり直すことになってしまいました。二回目でもまだ少し薄く、上手くやるできませんでした。

三日目の見学では、高知城と四国村、旧恵利家住宅の見学に行きました。中でも四国村では、普段見ることができない古民家や四国特有の蔵などを、楽しく見学することができました。四日目からは大津磨きの実技に入りました。四日目は材料の準備をし、五日目から塗る作業にはいりました。磨きは初めての体験だったので、しっかりと光ってくれたので良かったです。五日目の赤大津の磨きでは、初めてのこともあり要領が掴めず、すごく四苦八苦することになりました。しかし六日目の黒大津の磨きでは要領が掴めたのか、

順調に仕上げることができました。

今回の研修会は初めてのことばかりですごく楽しむことができました。講師の方々、ありがとうございました。

(中島左官棟)

■小島 徹也

前期研修は名古屋で、愛知県と犬山市の伝統建造物や文化財保護について、講義や大津壁の実技講習、富山では鍔絵やなまこ壁の見学をさせていただきました。大津壁の実技では、材料の調合の仕方や塗り方などを教えていただきました。下塗りの中塗り土の水ひき加減で上塗をかけるタイミング、鍔の逃がし方で色むらがないように仕上げるなどです。富山の鍔絵では、竹内源造の鍔絵を見学し、源造の左官技術を勉強させていただきました。石崎先生から鍔絵を教えていただき大変勉強になり、

鰻絵をするのが楽しかったです。

今回の講習を受け、大津壁や鰻絵などを教えていただき、また一つ左官技術の難しさや面白さが分かりました。次の講習でも、色々な技を勉強させていただきたいと思いました。

後期研修は、高知で土佐漆喰の製造所において、石灰の原石から土佐漆喰になるまでの工程を見せていただきました。中脇先生からは、土佐漆喰や建物の講義を受けました。松本先生からは、土佐漆喰磨きの塗り方や磨き方などお教えていただきました。姫路では浅原先生から、磨きの材料の作り方から仕上げまでの工程を教えてくださいました。土佐漆喰磨きや黒や赤の磨きなどはしたことがなかったもので、今回参加させてもらうことが楽しみでした。そして実際にやってみて、材料の下ごしらえや材料のかげん、塗り方など大

変勉強になりました。

最後になりましたが、講師や引率してくださった先生方や事務局の方、ありがとうございました。

(旬津田左官工業所)

■ 竹内 一司

前期研修では今回も講義・実習と色々なことを学びましたが、最も印象に残ったことは大津壁の実技です。私にとつては初めてのことばかりでしたが、先生方や他の研修生の方々に教えていただいたり、アドバイスをもらいながら何とか大津壁を仕上げる事が出来ました。材料作りでは、その調合の仕方やかき混ぜるコツ、そして壁を塗る時にも塗り付けの仕方、こなし方、押さえるタイミング等々、非常によい経験が出来たと思います。最初は上手く出来ませんでした。二日目はどうやれば上手くいくのかというのが少し理解出

来、初日より上手くなったのではないかと思います。他の研修生の鰻使いやその他作業を見ることで、自分の上達へのヒントになり非常に有意義な時間となりました。また富山での鰻絵の見学や実習も非常に楽しく、よい経験が出来たと思います。

特に竹内源造記念館や十社大神、千光寺での竹内源造の作品の数々は非常に印象的でした。一昔前の、同じ左官屋さんが魂を込めて作り上げた作品というものがとても力強く、何十年経った今も私達に訴えかけてくるものがあります。こうした仕事を自分もしたいと強く思いました。実際にやってみて鰻絵はとても難しいものがありましたが、時間を忘れて集中し楽しく作業出来ました。良い仲間にも恵まれとてもよい研修でした。

後期研修は、台風によるJRダイヤの乱れにより集合が遅れ、

スケジュールが変更になるなど波乱のスタートではありませんが、前期に続いて講義・実習・見学とも非常に充実したものでなりました。特に土佐漆喰については非常に色々と学ぶことが出来ました。中でも中脇先生による講義はとても奥深く、興味深いお話でした。その歴史や製造方法などがよく理解できまし、

何より今では建築現場から消えつつあるという土佐漆喰を何とか後世に残していこうというその取り組みをお聞きして、先生の熱い情熱が感じられ非常に良かったと思います。講義後に中脇先生の作られたHPの資料などを拝見して、改めて凄いと感じました。また、土佐漆喰の塗り付けを体験したのも非常に有意義でした。上手いこととは言い難いですが、鰻使いなども細かく指導して頂きとてもよい経験が出来ました。研修後半の実

習では、左官の最高の仕上げといわれる大津磨きが体験でき、非常に勉強になりました。前の大津壁に続いて今回も初めてのことがばかりでしたが、先生方に教えて頂き、自分でも試行錯誤しながら何とか壁を仕上げることが出来ました。材料作りでは土や石灰など何度も篩に通したり、紙スサを何度も何度も叩き解して使用する、さらに作った材料は一年寝かせるなど、これ程に手間をかけるのかと驚くと同時に、さすがに最高峰の仕上げだと感心しました。一日かけて材料作りを学び、二日目、三日目は実際に壁を塗りました。

水引きが早いので塗り付け時は「手早く」と聞いていたのですが、少し焦ってしまい上手くいかず、まだまだ修行が足りないと感じました。

今回で普通講座全ての日程を終了した訳ですが、様々なこと

を学び経験することが出来、またよい仲間にも恵まれ本当に充実した時間を過ごすことが出来ました。お世話いただきました先生方やスタッフの皆様には本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(株山協組)

■ 深井 浩昭

前期研修の一週間のメニューは、講義が一日、名古屋城と竹内源造記念館の見学が一日、大津壁と鰻絵の実技が二日づつという内容で、前回よりも実技の方が多かったので、一丁違う心持ちで挑みました。よく耳にする大津磨きではなく、並み、中級仕上げを浅原先生を中心とする講師陣のもと材料作りから始めました。糊を使わないので、苧の量も加減しながら作ります。重要なのはその加減を手の感覚で覚えておくという事でした。材料も直接手で握り、あんばい

をみながら練りました。最初に塗った壁は、こすり土の乾きが早過ぎて上塗りのおさえが上手にいかなかったもので、次はこすり土を一丁厚めにして、上塗も二度塗りの所も三回塗って納めました。塗りの厚さや、押さえのタイミングの難しい壁でした。

鰻絵については正直、竹内源造の事は知りませんでしたが、館の目玉にもなっている龍の迫力は誰の口からも「スゴイ」の一言が出る仕事でしょう。土で盛り上げる源造流での工法の実習は楽しい時間でした。鰻もあれやこれや色々な大きさや形の物が必要なので、自分でもオリジナルな物を叩こうかなと思いましたが。講義講師の長谷川良夫先生、近藤佳世先生、鰻絵の石崎勝紀先生、竹内源造記念館、実技指導、引率していただいた文化財壁技術保存会の方々、一週間、本当にありがとうございました。

した。

後期研修は、最大級の台風が上陸すると同時に明石駅を目指しました。なんとか集合場所に到着する事が出来ました。今回は土佐漆喰、大津壁の磨きの実技、土佐漆喰の製造工場の見学と講義、高知城と香川県の古民家の見学というメニューでした。台風のせいで一日目のスケジュールが、大幅に狂ってしまいましたが、北村石灰工場の土佐漆喰の製造は見る事が出来ました。社長の北村さんの話も面白く貴重な見学でした。中脇先生の土佐漆喰の講義は、今まで研修会で行われた講義の中で、自分としては一番楽しかった講義になりました。講師の中脇先生は映像やインターネットを使った資料作りに長けていて、この場だけに止まらずに、後々まで活用が直ぐ出来る様になっている所が素晴らしいと思いました。

土佐漆喰の仕上げは、一回塗り
で厚みももたせて抑えこむとい
う塗り方が独特だと思いました。

一回目では上手く塗りつける事
が出来なかったので、松本先生
にもう一度教えてもらいチャレ
ンジしましたが、時間切れで残
念ながら光らせる事が出来ませ
んでしたが、感覚は少しつかめ
ました。大津壁は、材料作りを
下塗りから上塗りまで全て行
う事がまず勉強になりました。押
え、雑巾もどしなど、その都度
のタイミングが難しかったです。

引率していただいた役員の
方々からの指導も、研修生の仲
間との交流しながらの勉強も楽
しく出来ました。

(吉村興業(株))

■藤本 健一郎

前期研修は、犬山の伝統的建
造物について、また愛知県にお
ける文化財保護について説明し
て頂きました。中でも文化財の

分類が細かくされており、よく

解りました。また、文化財建造
物を地域の人達と一体となって
町並みを保護し、活用していく
ことが大切だと思いました。大
津壁では、黒・赤・灰・黄・浅
黄の五種類と灰土の材料作りを
昔ながらの工法で行うと、土の
粘りと苅の加減など実際に手で
触ってみて、感覚で覚えておく
ことを教えて頂きました。実際
に壁を塗って感じた事は、塗り
厚、水引きの具合など少し遅れ
ると仕上がりにムラが出てきま
した。水引きのタイミングの見
極めが大事だと感じました。

名古屋城本丸御殿見学後、竹
内源造記念館へ行き作品の説明
をして頂きました。どの作品も
素晴らしく良かったです。その
中でも「双龍」には、圧倒され
ました。鍔絵とは思えない立体
的かつ繊細な部分まで丁寧にな
れており、実際に見て感動致し

ました。また鍔絵実習では、石
崎先生に立体的に表現するポイ
ントなどを教えて頂き、改めて
鍔絵の難しさや根気と集中力が
いる作業だと思いました。今回
の研修を基に今後の仕事に活か
していきたいと思います。また、
前回よりも研修生達と意見交換
し、交流を持てたことも有意義
だったと思います。

後期研修は、まず北村石灰さ
んを見学させて頂きました。石
灰石から土佐漆喰ができるまで
の工程、そして窯の構造を教え
て頂きました。石炭やコークス
など海外からの輸入品で少しず
つ材料も時代と共に変わってい
く中で、需要も減り生産者の
方々も苦労されておられます。
昔の工法で生産しておられる方
は、今では数軒しか残っていな
いという事を知り、生産者達を
守っていかなくてはならない事
だなと思いました。また、中脇

先生の講義で土佐漆喰の特徴と
歴史などを教えて頂き、土佐漆
喰の実技へと移り、松本先生に
塗り方の説明をして頂きました。

水引きが早くムラができて、思
うような仕上りにはなりません
でしたが、この失敗も踏まえて
次に活かしていきたいと思いま
す。四国村と旧恵利家住宅の見
学では、土の仕上げが多くて、
長い時を経て壁の表面に錆が出
ていて、何とも言えない風合が
印象に残りました。また色々な
大きさと形の「へっつい」も見
る事ができ、とても参考になり
ました。大津磨きの実技では、
材料の調合を昔ながらの工法で
進めていく中で、引き土灰土一
口とひとつひとつ工程を知る事
ができ、材料作りを丁寧にしつ
かりと作らないと仕上げに大き
く影響するという事と、材料作
りがこれだけ手間がかかる事が
良く理解する事ができました。

また実際に壁を塗ってみて、自分の納得できる仕上がりではなかったのですが、次に生かせる物を少し掴んだように思います。

今回の研修を通して多くの事を学ばせて頂きました。この経験を今後の仕事に生かせるよう努力してまいります。

(原左官工藝)

■丸橋 優樹

前期研修は、まず愛知県の文化財についての講義でした。愛知県には歴史的な背景から、他の県に比べると城の建造物が多く残っていました。全体的には、鎌倉時代よりも古い文化財はないとのこと。その理由としては、政治の中心が奈良・京都であった事で、後の鎌倉時代になり京都と鎌倉を結ぶ地として発展した事により、江戸の前期の文化財が多い事が特徴でした。大津壁の実技は材料作りで、昔の電動工具のない時代のやり方

で行いました。竹の棒を二本作って、二人で相手番になって練る方法を教わりました。初めはこの様な練り方でしっかり混ぜるのか不安でしたが、いざ塗ってみると良く材料が混ざっており、とても良い経験をさせてもらいました。大津壁の仕上げの工程は各地によって色々やり方が違うようです。こすり土を一回塗りその上に灰土を二回塗り水引きを見ながらさらにその上に引き土を二回塗り押さえ込んで仕上げるやり方、灰土を塗り水引きを見て引き土をかけるやり方、こすり土で中塗りをしてから水引きを見て引き土をかけるやり方、の計三通りのやり方を今回はしました。どのやり方もやはり下地をしっかりと作る事、水引きを均一にする事、引き土をかけるタイミングを間違えない事が重要だと思いました。竹内源造記念館の見学では、ま

ずバスから降りて目に入ってきたのが、記念館の外部にあるレリーフ彫刻のような鍔絵でした。それが綺麗に残っており、しかも、大正時代に作られた物であると聞いて大変驚かされました。中に入ると、三つの蔵に連続して作られたという龍の鍔絵がありました。今までその様な大きな鍔絵を見た事がなかったので、とても感動しました。細部まで良く作られており、立体感がとてもありました。竹内源造という方は芸術性豊かでありながら、左官の技術においても一流な方なんだと思いました。そして今回、初めて鍔絵の作品を作りました。図案を考えていき、下絵を額に写し、いざ中塗りを進めていくと、平面から立体にする時に、限られた範囲で立体感を出すのにとっても苦労しました。今回は他の研修生の皆さんは個性的な作品も多く、良い刺激に

なり、とても良い勉強になりました。

後期研修は、北村石灰製造工場の見学から始まりました。北村先生は昔ながらの製造方法で土佐漆喰を作られており、時間をかけて石灰石を焼いて作られていました。しかし、昔と今では原材料の質が低下しているようで、昔の様な土佐漆喰が作れなくなっているとの話でした。土佐漆喰についての講義では、土佐漆喰は普通の漆喰とは違い糊が入っておらず、稲藁を発酵させた物と石灰石を塩焼きした物を混練りした材料で、練る回数によって下塗りや上塗りに分かれていました。糊や苳（麻や紙）の代わりに藁苳を入れる事で繊維部はねばりになり、繊維部は苳の役目をする事で糊と苳の両方の役目を果たしているのだなと思いました。土佐漆喰の実技では、今回は昼からの

作業だったので、半日で仕上がった。土佐漆喰は普通の漆喰とは違い、塗り厚を一回で厚めに塗り、それを抑え込んでいく仕方でした。普段とは違い、厚塗りをしないといけないのですが、それが思った程塗れていなく、水引きに負けてしまいました。松本先生は土佐漆喰の種類によって、塗り方や塗り厚を変えて多くの経験をもとに仕事をされており、とても感心させられました。大津磨きの実技では、一日目はどのような水引きをするか分からなかった。少しい灰土を厚く塗り、したので、あまり水が引かない下地のよう、中々引き土を塗る事が出来ず、引き土を塗ってからも、灰土が水を持ち過ぎていたので、最後まで鏝あたりが悪く綺麗に仕上がりませんでした。二回目は、一日目の経験を活かして灰土の塗り厚を薄くしまし

た。するとすんなり仕上がりました。左官全般に言える事ですが、下地や気候によって塗り厚や上に塗る材料のタイミングを変えなければいけないと思いました。今回の普通講座は、実技の講座があり役員の方々や講師の先生方から、親切に細かい所まで指導して頂き感謝しております。他の研修生の皆さんと討論しながら研修出来た事も、とても良かったと思います。今回学んだ事を少しでも仕事に役立てたいと思います。

(株)つくい浅原



講義（前期研修）



材料準備



講義



大津壁塗り



材料準備



鰻絵 見学



大津壁塗り



前期研修生と講師



鰻絵 実技



土佐漆喰の講義



石灰製造工場見学（後期研修）



高知城見学



土佐漆喰塗り



旧恵利家住宅見学



四国村見学



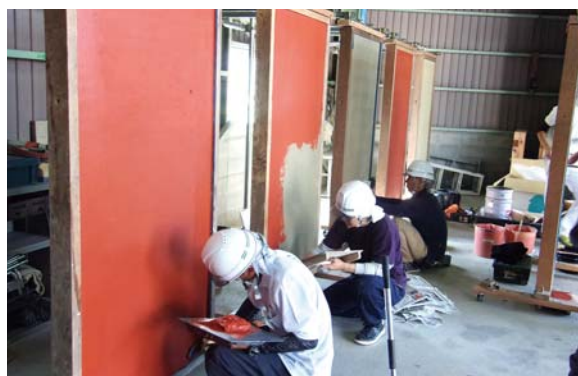
大津磨き



材料準備



後期 研修生と講師



大津磨き



姫路城漆喰塗り体験会

保存会と姫路市の共催事業として、体験会を開催しました。

平成 29 年 9 月 24 日、姫路城三の丸広場において、平壁漆喰塗りと屋根目地漆喰塗りを、保存会会員の指導により、希望者に体験をしていただきました。また道具や材料見本の展示も行いました。



日本の技 体験フェア

文化庁主催の「日本の技体験フェア」が、平成29年9月30日と10月1日、三重県いつきのみや地域交流センターと、さいくう平安の杜で開催されました。本会は、活動状況のパネルや左官材料・道具などの展示を行うとともに、他の保存団体と協同して「壁掛けづくり」の体験会を行いました。



漆喰のじや

日本壁の仕上げ材を代表するものとして、漆喰と色土があります。漆喰は飛鳥時代に初見されるよう、古代から使われてきました。色土は、安土桃山時代から使われ初め、江戸時代以降、多くの色土が使われるようになり、多様な壁が生み出されました。

ここでは、日本で一番古くから使われてきました漆喰について考えてみます。

日本の漆喰は、二種類あります。一つは古代から使われてきた漆喰です。もう一つは江戸時代から考えている土佐漆喰です。古代からの漆喰は、消石灰に麻糸を混ぜ、糊（古代では米粥、近世から海藻）で練ったものです。各現場で練り作ります。使われている地域は、四国を除く全国です。一方、土佐漆

喰は、消石灰に藁を発酵させて作る藁苳(初めの頃は、生の藁を苳として使った可能性があるようです。)を混ぜて作ります。工場で作ったものをビニール袋に入れ、製品として現場に運びます。使用範囲は四国(瀬戸内海沿岸を除く)を出ません。(近年では、広く使われるようになっていきます。)古代からの漆喰は薄塗りが基本ですが、土佐漆喰は厚塗りが一般的です。このように、漆喰といえども随分異なるものです。

なお古代からの漆喰は、古文書により使用材料が分かっています。しかし、江戸時代の文書には、材料に「酒」の使用記録があるのがみられます。今のところ使用理由や目的など、全く分かりません。(現在の漆喰に、「酒」を使うことはありません。)

一方、土佐漆喰が使われ始め

たのは江戸時代の中頃かと考えていますが「江戸時代も末頃からか」との説もあり、何時頃に、誰により発明されたのか、また古代からの漆喰との関係など分かっていません。

漆喰の起源は、大陸からの伝来の可能性が高いと考えていますが、明確ではありません。最近、韓国国立文化財研究所の研究員の方に話を伺う機会がありました。「現在韓国では、消石灰を海藻糊で練って使う漆喰は使うが、姫路城のような貝灰や苳は使わない」とのことでした。漆喰のルーツの手掛かりの一つではないかと考えています。

日本壁の優れた仕上げ材である「漆喰や土佐漆喰」は、まだまだ分からないことが多くあり、解明が待たれる興味深い材料でもあります。

(保存会顧問 上田耕三)



土佐漆喰(数年で白くなる)



漆喰(古代から)

編集だより

会報の発行にあたり、原稿をお寄せいただきました皆様方に御礼申し上げます。

表紙には「伝承者養成技術研修会(普通講座)」での研修生の皆さんの鏝絵作品を掲載いたしました。いずれも力作で、素晴らしい作品に仕上がっていると思います。また研修生の皆様からは、率直で詳細な感想を寄せていただきました。

会長、副会長からのメッセージなど、多様な思いや情報も寄せていただきました。

事務局の吉田様には担当間もないところ、校正等ご尽力を頂きました。改めまして御礼申し上げます。

(編集 保存会顧問 上田耕三、事務局 中嶋正雄)

選定保存技術左官（日本壁） 伝承者養成技術研修会受講修了者名簿

番号	氏 名	住 所	所属事業所(交付当時)	生 年	修了証交付日
1	浅 原 一 郎	京都府	し っ く い 浅 原	昭和 48年	平成17年4月1日
2	安 達 明 宏	京都府	(有) 安 達 左 官 店	昭和 39年	//
3	北 村 久 彦	滋賀県	(有)津田左官工業所	昭和 50年	//
5	柴 田 正 樹	兵庫県	(株) 山 脇 組	昭和 50年	//
6	中 島 英 貴	愛知県	中 島 左 官 (株)	昭和 52年	//
7	矢 野 孝太郎	京都府	し っ く い 浅 原	昭和 48年	//
8	勝 木 巖	京都府	左 官 業 佐 藤	昭和 37年	平成18年4月1日
9	清 水 達 朗	京都府	(有) 田 代 千 治 店	昭和 49年	//
10	廣 田 直 人	兵庫県	し っ く い 浅 原	昭和 44年	//
11	山 脇 一 夫	兵庫県	(株) 山 脇 組	昭和 55年	//
12	伊佐次 卓 也	岐阜県	中 島 左 官 (株)	昭和 59年	//
13	高 屋 忠 光	京都府	(有) 田 代 千 治 店	昭和 48年	//
14	香 取 寛 隆	京都府	(有) 安 達 左 官 店	昭和 51年	//
15	本 田 俊 之	大阪府	本 田 左 官 工 業 所	昭和 56年	平成21年4月1日
16	石 田 均	香川県	石 田 左 官 工 業	昭和 33年	//
17	大 森 祐 郎	京都府	(有) 田 代 千 治 店	昭和 51年	//
18	塩 畑 明 浩	兵庫県	(株) 山 脇 組	昭和 62年	//
19	田 中 昭 義	京都府	左 官 業 佐 藤	昭和 48年	//
20	水 野 秀 紀	愛知県	中 島 左 官 (株)	昭和 52年	平成22年4月1日
21	吉 川 司	兵庫県	(株) 山 脇 組	昭和 48年	//
22	大 石 晃 司	京都府	左 官 業 佐 藤	昭和 53年	//
23	及 川 敏	東京都	(株)あじま左官工芸	昭和 39年	//
24	小 迫 傳	鹿児島県	小 迫 左 官	昭和 22年	//
25	山 本 登	鹿児島県	小 迫 左 官	昭和 35年	//
26	志 村 まい子	愛知県	中 島 左 官 (株)	昭和 58年	//
27	荒 木 孝 行	東京都	(株)あじま左官工芸	昭和 48年	平成25年4月1日
28	永 井 宏 和	兵庫県	(株) 山 脇 組	昭和 55年	//
29	淵 田 桂 太	愛知県	中 島 左 官 (株)	昭和 52年	//
30	本 田 英 雅	京都府	佐 藤 左 官 工 業 所	昭和 45年	//
31	御 園 拓 馬	大阪府	本 田 左 官 工 業 所	昭和 60年	//
32	足 立 純	兵庫県	足 立 組	昭和 47年	平成26年4月1日
33	笹 原 剛	東京都	(株)あじま左官工芸	昭和 54年	//
34	中 田 一 真	大阪府	(株) イ ス ル ギ	昭和 59年	//

番号	氏 名	住 所	所属事業所(交付当時)	生 年	修了証交付日
35	野 村 智 広	京都府	佐 藤 左 官 工 業 所	昭和 57年	//
36	細 江 洋 平	愛知県	中 島 左 官 (株)	昭和 57年	//
37	今 成 辰 夫	東京都	吉 村 興 業 (株)	昭和 51年	平成29年4月1日
38	太 田 勝 之	香川県	太 田 左 官	昭和 47年	//
39	大 田 雄 介	兵庫県	(株) 山 脇 組	昭和 63年	//
40	加 藤 正 幸	三重県	しゃかん かとう屋	昭和 47年	//
41	木 谷 直 充	京都府	(株) し っ く い 浅 原	昭和 62年	//
42	永 井 貴 晃	大阪府	(株) イ ス ル ギ	昭和 61年	//
43	原 慶 介	和歌山県	原 左 官 工 藝	昭和 53年	//
44	森 田 真 伍	愛知県	中 島 左 官 (株)	昭和 61年	//
45	上 床 匡 史	愛知県	中 島 左 官 (株)	平成 1年	平成30年4月1日
46	小 島 徹 也	滋賀県	(有)津田左官工業所	昭和 63年	//
47	竹 内 一 司	兵庫県	(株) 山 脇 組	昭和 44年	//
48	深 井 浩 昭	東京都	吉 村 興 業 (株)	昭和 44年	//
49	藤 本 健一郎	和歌山県	原 左 官 工 藝	昭和 42年	//
50	丸 橋 優 樹	京都府	(株) し っ く い 浅 原	昭和 58年	//

選定保存技術左官(日本壁) 伝承者養成技術研修会 中級研修受講修了者名簿

	氏 名	住 所	所属事業所(交付当時)	生 年	修了証交付日
第1期生	浅 原 一 郎	京都府	(株) し っ く い 浅 原	昭和 48年	平成25年4月1日
	北 村 久 彦	滋賀県	(有)津田左官工業所	昭和 50年	//
	杉 坂 健	愛知県	中 島 左 官 (株)	昭和 38年	//
	田 中 昭 義	京都府	(有)京壁 井筒屋佐藤	昭和 51年	//
	矢 野 孝太郎	京都府	(株) し っ く い 浅 原	昭和 48年	//
第2期生	安 達 明 宏	京都府	(有) 安 達 左 官 店	昭和 39年	平成27年4月1日
	榎 本 英 樹	京都府	木 津 工 業 所	昭和 45年	//
	及 川 敏	東京都	(株)あじま左官工芸	昭和 39年	//
	大 石 晃 司	京都府	(有)京壁 井筒屋佐藤	昭和 53年	//
	小 林 常 司	京都府	左 司	昭和 43年	//
	佐 伯 愛 子	京都府	木 津 工 業 所	昭和 52年	//
	志 村 まい子	三重県	しゃかん かとう屋	昭和 58年	//
	長 谷 清 高	東京都	(株)あじま左官工芸	昭和 47年	//
第3期生	笹 原 剛	東京都	(株)あじま左官工芸	昭和 54年	平成29年4月1日
	清 水 達 朗	京都府	(有) 田 代 千 治 店	昭和 49年	//

会 員 名 簿

	会 員 名	住 所	事業所名等	左官関係所属団体
正 会 員	佐 藤 治 男	京都市左京区下鴨南茶ノ木町23-4	左 官 業 佐 藤	
	安 達 保 信	京都市下京区花屋町通り間の町西入る天神町411-2	(有) 安 達 左 官 店	京都左官協同組合
	中 嶋 正 雄	愛知県江南市力長町大当寺128	中 島 左 官 (株)	愛知県左官業協同組合
	田 代 益 市	京都市下京区猪熊通り塩小路下る上夷町165	(有) 田 代 千 治 店	
	石 田 均	香川県さぬき市大川町富田中2147	石 田 左 官 工 業	
	小 林 錦四郎	和歌山県有田郡湯浅町湯浅2132-17	小 林 左 官 店	
	津 田 弘 道	滋賀県大津市下阪本1丁目20-22	(有)津田左官工業所	
	山 脇 一 夫	兵庫県姫路市飯田1-24	(株) 山 脇 組	
	浅 原 雄 三	京都市山科区大宅沢町185	(株)しっくい浅原	
	片 田 儀 斎	京都市上京区西洞院通中立売下る菊屋町256	片田儀斎営業所	
	本 田 俊 之	大阪府寝屋川市高柳2丁目43-13	本田左官工業所	
	松 本 勉	高知県安芸市井ノ口乙 1202-3	(有)左官 松本組	日本左官業組合連合会
	阿 嶋 一 浩	東京都葛飾区青戸8丁目19-11	(株)あじま左官工芸	日本左官業組合連合会 日本漆喰協会
	小 迫 傳	鹿児島県出水郡長島町蔵之元3246の1	小 迫 左 官	
	小 林 常 司	京都市中京区東洞院蛸薬師下る元竹田町639-11	左 司	
	加 藤 正 幸	三重県伊賀市東高倉2380-11	しゃかん かとう屋	日本左官業組合連合会
準 会 員	足 立 三喜男	兵庫県三木市緑が丘町東1-3-4	(株) 足 立 組	兵庫県左官工業協同組合
	石 動 信 明	石川県金沢市神田1丁目31番1号	(株) イ ス ル ギ	大阪府左官工業組合 石川県左官業組合連合会
	桑 路 丸 幸	兵庫県神崎郡市川町沢115-2	桑 路 建 塗 (株)	日本左官業組合連合会
	木 津 恵 雄	京都市東山区古門前通り大和大路東入る二丁目三吉町344	木 津 工 業 所	京都左官協同組合
	太 田 勝 之	香川県三豊市豊中町笠田笠岡3156-3	太 田 左 官	日本左官業組合連合会
	原 健 一	和歌山県和歌山市湊御殿2丁目6	原 左 官 工 藝	和歌山県左官工業協同組合
	吉 村 誠	東京都中野区上鷲宮4丁目10番6号	吉 村 興 業 (株)	日本左官業組合連合会
	原 田 正 一	山形県山形市大字中野423-1	原田左官工業所	山形県左官工業組合 山形市左官業組合
	川 越 一 弘	熊本県熊本市東区戸島町920番地6	(株) カ ワ ゴ 工	
賛 助 会 員	宮 谷 邦 夫	兵庫県三木市別所町朝日ヶ丘35番地の69	宮 谷 製 作 所	兵庫県左官工業協同組合
	村 檉 太 郎	栃木県佐野市宮下町1番10号	村檉石灰工業(株)	
	北 野 一 成	大阪府堺市中区深井北町104-2	(株) 北 正 商 店	
	尾 崎 良 弘	京都市伏見区深草大亀谷西久宝寺町7	尾崎色土製造所	
	鳥 越 宣 宏	大分県津久見市徳浦2052-5	(株) 丸 京 石 灰	日本漆喰協会